

水がささえる豊かな社会

2023

水とともに

夏号

特集

九州が熱か!!

筑後川局管内新規事業の紹介

第37回
“水とのふれあい”フォトコンテスト
佳作作品



タイトル：水龍出現
撮影場所：市房ダム
撮影者：川島 美弥

CONTENTS

- 02 特集 九州が熱か!!
筑後川局管内新規事業の紹介
- 06 トピックス 「首都圏の水がめ」
みなかみ3ダム・春の点検大放流
- 08 トピックス
夏だ!!ダムカレーを食べに行こう!
- 10 トピックス
最近の水資源機構の国際業務
- 12 トピックス 淀川水系 川上ダム
- 14 トピックス
愛知用水三好支線水路緊急対策事業
- 16 シリーズ 第2回 シニアカ
- 18 連載 気象キャスターが解説! 天気のみカタ
第33回 近年の豪雨と線状降水帯
気象キャスターネットワーク 吉竹 顕彰
- 20 トピックス
気象キャスターの方々との交流
- 22 水機構ニュース
- 24 モニター様の声・施設紹介・編集後記

特集
九州が熱か!!

筑後川局管内新規事業の紹介

はじめに

水資源機構は、筑後川水系において、これまでに7施設(両筑平野用水(江川ダム)、寺内ダム、筑後大堰、筑後川下流用水、福岡導水、大山ダム、小石原川ダム)を完成させ、約40,000haのかんがい用水の供給、約330万人の水道用水の供給などを行い、流域内外の各種用水の需要に応え、渇水被害及び洪水被害の軽減に寄与しています。これら7施設の管理業務の他、既存施設の大規模地震に対する耐震性能の確保、老朽化した施設の長寿化対策を目的として、平成30年度から福

岡導水施設地震対策事業を実施しております。これらに加え、危機的な渇水、地震及び洪水等による大規模自然災害並びに水資源開発施設の老朽化、劣化に伴う大規模な事故等、水資源を巡る新たなリスクや課題に対応すべく令和5年度、新たに3事業に着手することとなりました。次に、今年度着手することとなった3事業について紹介します。



筑後川下流用水総合対策事業

筑後川下流用水施設は、筑後川下流域に広がる福岡・佐賀両県の広大な農地に水を供給するため筑後川本川から導水するための基幹水利施設であり、当地域の農業用水の安定供給に欠かせない施設であるとともに、幹線水路は地域の排水も担っています。しかし、これまでに取水施設などの重要施設に耐震性能不足が確認されるなど、地震対策が喫緊の課題となっています。

筑後川水系ダム群連携事業

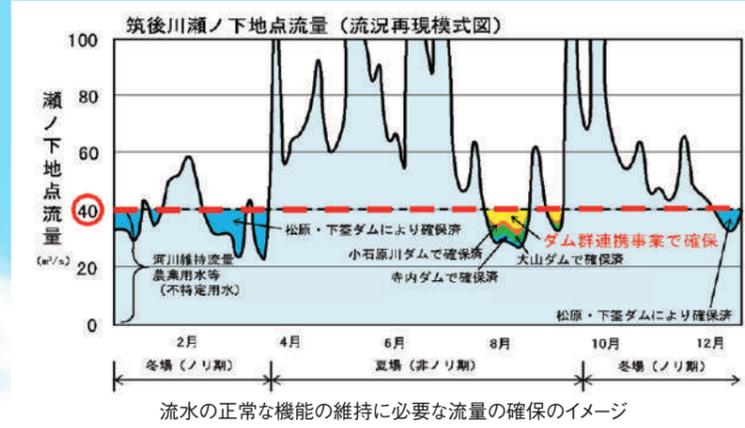
筑後川の水は、上流域から下流域に至るまで、発電用水や農業用水等で繰り返し利用されています。また、福岡都市圏などへ広域的に水の供給がされていることから、筑後川は、北部九州における重要な水供給源となっています。筑後川の水資源開発は、急激に増大する水需要に対応するため、これまでに、都市用水等の開発を下流域の流水の正常な機能の維持のための流量の開発に優先してきた歴史的な経緯があります。

計画上、冬場の流水の正常な機能の維持のための流量については、松原ダム・下笠ダムからの補給により確保されていますが、夏場については既存の寺内ダム・大山ダム・小石原川ダムからの補給では不足が生じます。

このため、筑



筑後川水系ダム群連携事業概要図



後川水系ダム群連携事業により、流量が豊富な時に筑後川本川から寺内ダムの上流の佐田川に最大2.0m³/s導水し、江川ダム・寺内ダム・小石原川ダムの利水容量の一次的な空容量に貯留することにより、不足する流水の正常な機能の維持のための水を確保すること

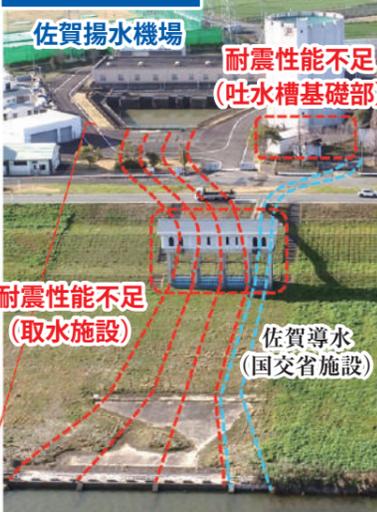
しています。本事業により、筑後川下流における流水の正常な機能の維持のための流量を確保することが可能となり、筑後川水系の水資源開発の総仕上げとなる重要な事業といえます。筑後川水系ダム群連携事業は、平成13年度から国土交通省において調査が実施されてきましたが、本事業で整備する施設は、水資源機構が管理する江川ダム、寺内ダム、小石原川ダムと一体的な管理・運用が必要であること等の理由により、水資源機構が事業を承継することとなりました。なお、国土交通省と水資源機構は、引き続き、連携を図りつつ事業を推進してまいります。

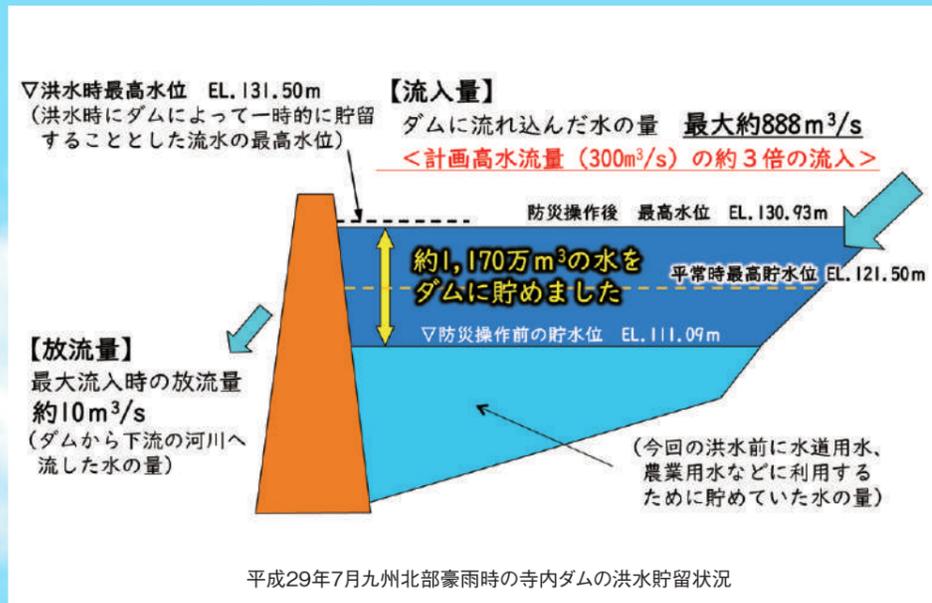
筑後取水施設 筑後揚水機場



地震対策の対象箇所(取水施設の例)

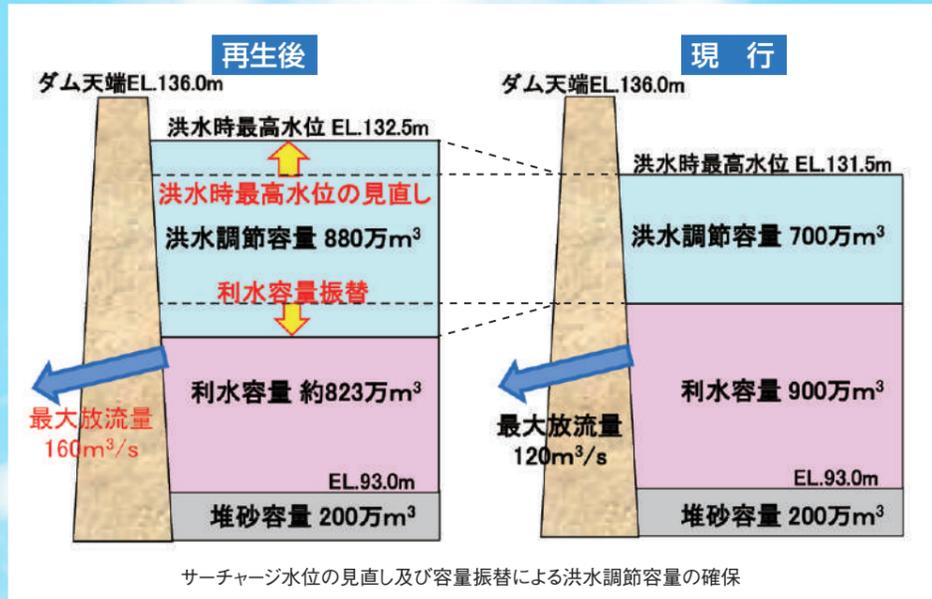
佐賀取水施設





時は渇水傾向にあり、寺内ダム貯水池の水位が低く、洪水調節容量に加えて利水容量内にも洪水を貯留できる状態であったことから、ダム下流における被害を軽減することができました。しかし、利水容量内に洪水を貯留することができない状態で平成29年九州北部豪雨と同規模の大雨が発生した場合、ダム下流における被害が甚大なものになると想定され、対策が必要となっていました。また、地元からも、対策の実施についての強い要望の声が挙がっていました。

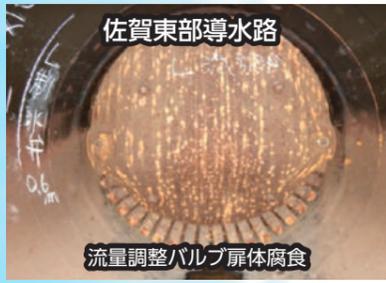
このようなことから、寺内ダムのサーチャージ水位



(洪水時最高水位)の見直しを行うとともに、利水者の協力を得て容量振替を行うことにより、洪水調節容量を現在の700万m³から880万m³に増大させるとともに、非常用洪水吐きの改造を行うことで治水機能の向上を図るものとして事業に着手することになりました。河川管理者が行う河川改修と併せて寺内ダム再生事業を行うことにより、平成29年九州北部豪雨と同規模の洪水に対して被害の防止または軽減を図ることができるようになります。



整備が待たれるクリーク法面



老朽化が進む導水路

また、造成後約40年が経過し、導水管に許容範囲を超えるたわみの発生など水路施設の機能低下や電気・機械設備の故障が頻発しています。

更には、幹線水路のクリークの法面崩落により貯水機能や排水機能の低下がみられています。クリークは貯水機能及び排水機能を有する地域特有の水路ですが、地域の洪水調節の役割も果たしています。洪水調節を行うためのクリークの先行排水操作や回復操作時には、クリーク内の流速が早く、水位変動も大きくなるため、護岸の整備が不可欠となっています。

事業が実施される地域は、筑後平野、佐賀平野にまたがる全国有数の農業地帯であり、米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業を主体とし、水田畑利用による野菜作等々を組み合わせた複合経営が展開されています。



従来の米や麦のほかアスパラガスやイチゴなど新たな農業経営も展開

す。万一、施設が損壊した場合には、代替施設がなく中期の取水停止を余儀なくされ、地域の営農に計り知れない影響を及ぼすことが懸念されるため、早急な対策が必要となっています。

このため、本事業では、地震対策・施設更新対策(老朽化対策)及び農地防災対策(クリーク法面対策)を行うことにより、農業用水の安定供給並びに災害の未然防止を図るとともに、施設の維持管理労力等の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定化を図ります。



洪水を貯留

寺内ダムは福岡県朝倉市の筑後川水系佐田川に位置するロックフィルダムで、洪水調節、かんがい用水及び水道用水の確保、流水の正常な機能の維持を目的とし、昭和53年6月から管理を行っています。

平成29年7月の九州北部豪雨において、筑後川流域では総降水量が多いところで500ミリを超え、平年の7月1ヶ月分の降水量を超える大雨となりました。また、福岡県朝倉市や大分県日田市等で24時間降水量の値が観測史上1位(令和5年6月時点)の値を更新し、甚大な被害が発生しました。

寺内ダムがある佐田川流域においても大雨に見舞われましたが、当

おわりに

今回紹介した3事業の事業着手に当たり、利水者を始め、関係行政機関及び学識者の皆様からのご理解とご協力、そして多くの力添えをいただきました。厚く御礼申し上げます。

事業着手に当たっては、朝倉ダム総合事業所(寺内ダム再生事業・筑後川水系ダム群連携事業)を新たに設置したほか、筑後川下流用水管理所を筑後川下流用水事業所に改組し体制を整えたところであり、関係機関との調整を図りつつ、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業の計画的かつ的確な実施に努めてまいります。



「首都圏の水がめ」 みなかみ3ダム・春の点検大放流

利根川の最上流部に位置する群馬県みなかみ町にある3つのダム（矢木沢ダム・奈良俣ダム・藤原ダム）は「首都圏の水がめ」であるとともに、利根川の治水における重要な役割を担っています。3ダムでは年に一度、洪水期を迎える前にダムの放流設備が安全に作動するかを確認するため「点検放流」を行っています。この点検放流にあわせて平成30年からはみなかみ町、地元住民及び関係機関、国土交通省、水資源機構の協働によりみなかみ町の春の一大イベントとして開催されています。



月夜野矢瀬太鼓の演奏(奈良俣ダム)

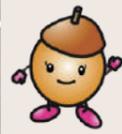
ちらで写真を撮る光景が見られるなど、思いのペースでダムを楽しんでいました。さらに、ダム天端では太鼓の演奏などたくさん楽しいイベントも開催されたほか、地元の美味しい食べものやダムグッズの店が集まった「みなかみマルシェ」も開催され、各ダムともたいへん賑わいました。矢木沢ダムの点検放流では、「あー楽しかった」とたくさん水を浴びてずぶ濡れになったお子さんの声が聞かれるなど点検放流を楽しまれた来場者の笑顔がたくさん見られました。



みなかみマルシェの賑わい(矢木沢ダム)



水を浴びる来場者(矢木沢ダム)



藤原・奈良俣再編ダム再生事業完了式



祝 藤原・奈良俣再編ダム再生事業完了式

奈良俣ダムの洪水調節容量239万m³と藤原ダムの利水容量239万m³の容量振替を行うとともに、藤原ダムの洪水調節方式の変更により治水機能の向上を図る藤原・奈良俣再編ダム再生事業について、令和元年度から令和4年度までの4か年の工期で国土交通省関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所及び独立行政法人水資源機構沼田総合管理所により施工した事業が完成し、5月20日に、奈良俣ダムにおいて事業完了式を行いました。

式典では、主催者挨拶の後、群馬県知事（代理）、地元選出国會議員、群馬県議会議長及びみなかみ町長による祝辞が述べられました。群馬県知事（津久井群馬県副知事代読）は「群馬県では令和元年12月に群馬気象災害非常事態宣言を發出し、頻発化・激甚化する気象災害の新たな脅威に対応できる災害レジリエンスNo.1の実現を目指し、自然災害から県民の命を守る体制の確立を進めているところ。ダム再生事業の完成に



群馬県知事代理 津久井副知事挨拶

花を添えてくれました。

より、更に洪水調整の効果が高まり、下流域における県民の生活と命を守るものにつながるものと期待している」と述べられたほか、来賓の皆さまからも機能が強化されたダム期待が述べられました。

祝電・来賓紹介の後、事業概要報告として、利根川ダム統合管理事務所長及び沼田総合管理所長から各ダムの改造工事について、厳しい施工条件の中ではあったもののDX等を活用し短期間で施工したことなどが説明されました。

続いて、式典は屋外のセレモニー会場に場所を移し、来賓による点検放流のゲート開放スイッチ押下とテープカットにより、奈良俣ダムからの点検放流が開始されました。多くの一般来場者が見守る中、ゲートが開き放流が始まるとお祝いムードは更に高まりました。そんな雰囲気の中、群馬県のマスコットでもあり群馬県宣伝部長の「ぐんまちゃん」と、地元みなかみ町水上温泉のイメージキャラクターの「おいでちゃん」も会場にかけつけ、記念撮影に



れぞれの特徴を活かした見学コースが設定され、イベント来場者は普段は立ち入ることができないゲート操作室やダム堤体直下、連絡トンネルなどたくさんの方の視所を楽しむ絶好の機会となり、あちらこ



今年の点検放流は、5月20日と21日に開催され、合計約3000人が来場しました。それぞれ特徴のある3ダムからの点検放流は、みなかみ地域の春の風物詩となっており、見どころは、藤原ダムの日本最大規模のホロージェットバルブからの迫力ある放流、利根川で最大の貯水容量を誇る矢木沢ダムのスキージャンプ方式の洪水吐きからの下迫力放流、ロックフィルダムの中で全国3位の高さを有する奈良俣ダムからの優雅な放流です。また、3つのダムを巡ることと3つの異なる型式のダムが見られるほか、そ

夏だ!! ダムカレーも 食べに行こう!



※数量限定の場合や営業時間・定休日・価格などが変更となる場合もありますので、事前にご確認の上お越しください。

岐阜県 木曾川水系 **徳山ダム**

よことくダムカレー
価格 1,300円

道の駅「星のふる里 ふじはし」
住所: 岐阜県揖斐郡揖斐川町東横山264-1
営業: 8時~17時
休業: 火曜
電話: 0585-52-2021

よことくダムカレー
価格 1,150円

道の駅「夜叉ヶ池の里 さかうち」
住所: 岐阜県揖斐郡揖斐川町坂内広瀬306
営業: 11時~14時(土日祝15時)
休業: 水曜
電話: 0585-53-2262

徳山ダムカレー
価格 1,000円

徳山会館
住所: 岐阜県揖斐郡揖斐川町開田280-1
営業: 10時30分~15時(金土日のみ営業)
電話: 0585-52-0033

三重県 淀川水系 **川上ダム**

※1日20食限定 要予約

いっぶくしてだあ〜こ
住所: 三重県伊賀市阿保798
営業: 11時~14時
毎月第3日曜のみ提供
※要確認
休業: 火曜・日曜
電話: 090-4795-8868

伊賀青山川上ダムカレー
価格 1,000円

※1日9食限定

川上ダムカレー
価格 900円

Cafe Wieder
住所: 三重県伊賀市上野東町2934
営業: 8時~17時
水曜・土曜のランチのみ提供
休業: 火曜・日曜
電話: 0595-51-6862

三重県 淀川水系 **青蓮寺ダム**

青蓮寺ダムカレー
価格 990円

ユノカフェ
住所: 三重県名張市青蓮寺2148
営業: 11時~16時
休業: 土曜・日曜・祝日
電話: 0595-28-0062

千葉県 利根川水系 **東金ダム**

レストラン玉子家
住所: 千葉県東金市東岩崎2-10
営業: 11時~15時
17時~21時
休業: 月曜
電話: 0475-53-5658

東金ダムカレー
価格 800円

埼玉県 荒川水系 **浦山ダム**

さくら湖食堂
住所: 埼玉県秩父市荒川久那4041
営業: 11時~13時30分(土日祝14時)
休業: 月曜・火曜
電話: 0494-54-1059(荒川商工会)

浦山ダムカレー
価格 900円

奈良県 淀川水系 **室生ダム**

和カフェ&ダイニング きえん
住所: 奈良県宇陀市 榛原萩原2455-14
営業: 11時~14時30分
17時30分~22時
休業: 日曜
電話: 0745-96-9866

※要予約
室生ダム薬膳カレー
価格 1,200円

奈良県 淀川水系 **高山ダム**

梅の郷月ヶ瀬温泉 お食事処 梅こころ
住所: 奈良県奈良市月ヶ瀬尾山2681
営業: 11時~20時30分
休業: 火曜(祝日が火曜の場合は営業)
電話: 0743-92-0388

高山ダムカレー
価格 1,020円

群馬県 利根川水系 **矢木沢ダム・奈良俣ダム**

みなかみ町内の複数施設
住所: 水上温泉旅館 協同組合
電話: 0278-72-2611

みなかみダムカレー
価格は施設により異なる

中盛り 重力式 (藤原・須田貝・相俣ダム)
普通盛り アーチ式 (矢木沢ダム)
大盛り ロックファイル式 (奈良俣ダム)

埼玉県 利根川水系 **下久保ダム**

道のオアシス神泉
住所: 埼玉県児玉郡神川町下久原110
営業: 11時~13時30分
休業: 火曜
電話: 0274-52-3332

下久保ダムカレー
価格 1,000円

京都府 淀川水系 **日吉ダム**

道の駅スプリングスひよし レストラン桂川
住所: 京都府南丹市日吉町中宮ノ向8
営業: 11時~18時
(土日祝日は20時まで)
電話: 0771-72-1526

ひよしダムカレー
価格 980円

ビジネスホテルひよし 天若の家 「キッチンあまわか」
住所: 京都府南丹市日吉町 殿田東小牧21-5
営業: 11時30分~14時
(水曜のみ営業)
電話: 0771-72-0373

日吉ダムカレー
価格 990円

長野県 木曾川水系 **味噌川ダム**

味噌川源流の里 きそむら 道の駅
住所: 長野県木曾郡木祖村敷原163-1
営業: 10時~16時
休業: 12~3月木曜休
4~11月定休日無
電話: 0264-36-1050

味噌川ダムカレー
価格 1,000円

道の駅上州おにし 暖炉亭
住所: 群馬県藤岡市譲原1089-2
営業: 11時~14時(土日祝15時)
休業: 火曜
電話: 0274-52-3300

下久保ダムカレー
価格 900円

鬼カフェ
住所: 群馬県藤岡市鬼石152-1
営業: 10時~17時
休業: 日曜・月曜
電話: 050-1195-8916

下久保ダムカレー
価格 900円(コーヒー付き)

高知県 吉野川水系 **早明浦ダム**

さめうら荘
住所: 高知県土佐郡土佐町 田井146-1
営業: 11時~14時
17時~20時
休業: 月曜
電話: 0887-82-1020

さめうらダムカレー
価格 1,600円

さめうらダムカレー SP
約3人前のBIGサイズ
価格 4,500円

福岡県 筑後川水系 **小石原川ダム**

豆腐工房 ぬくもり畑
住所: 福岡県朝倉市堤612
営業: 10時~17時
休業: 月曜
電話: 0946-24-7148

豆乳ダムカレー
(サラダ・ダムカード付き)
価格 980円

岐阜県 木曾川水系 **岩屋ダム**

南飛騨・馬瀬川温泉 美輝の里
住所: 岐阜県下呂市馬瀬西村1695
営業: 11時~14時
休業: 不定休
電話: 0576-47-2641

岩屋ダムカレー
価格 1,650円

岐阜県 木曾川水系 **阿木川ダム**

ふれんどりー阿木川湖
住所: 岐阜県恵那市東野2201-57
営業: 10時~16時(土日のみ営業)
電話: 0573-25-1302

阿木川ダム湖カレー
価格 900円



最近の水資源機構の

国際業務



水資源機構は、水資源開発公団の時代より水資源の開発や管理の専門家として培った経験やノウハウを活かした国際協力に取り組んで来ました。

具体的には、途上国への専門家派遣や国外からの研修生受入れを通じた政府開発援助(ODA)への貢献、業務受託による水資源に係る調査や、国際会議への参加による情報発信と収集等を通じ、水資源開発や管理能力の向上、防災・減災に貢献してきました。

また、2004年に発足したアジア河川流域機関ネットワーク(NARBO)の事務局として、アジアで水資源管理機関らと協働し、トレーニングやワークショップ等、様々な活動を行い、水問題の解決のための能力強化を推進してきました。

そして、2018年8月の「海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律(海外インフラ展開法)」の施行を契機に、日本の企業の海外インフラ事業への参入を支援する「海外調査等業務」が、水資源機構の主な国際業務として位置づけられました。

海外調査等業務は、海外における日本の企業の受注を目指し、水資源分野に係る案件の発掘・形成に向けて取り組むものです。同法の施行から約5年が経過しましたが、これまでに携わったいくつかの案件について紹介します。



流域内関係者が会する会議

手国政府や関係機関との調整を進めており、その過程の中で、同国のNARBOMENバーの協力のもと、ダム流域内関係者が一同に会する会議が開催され、流域における統合水資源管理、洪水時におけるダムの事前放流、ダムの堆砂問題の緊急性及び対策案などの必要性について流域内関係者と意識の醸成を図ることができました。

ミャンマーでの取組

ミャンマーの最大都市ヤンゴンに隣接するバゴー地域は、国内有数の穀倉地帯ですが、幹線水路から離れた地域に灌漑用水が届かない、水害に毎年悩まされる等の課題を抱えています。

インドネシアでの取組

インドネシアでは、これまで多数のダムが建設され、同国の経済発展を支えてきましたが、一部のダムでは堆砂や気候変動が原因でダムの機能に障害が生じる懸念が出てきており、このような課題への対応を進めるため、現地調査や相手国政府関係機関との協議等に取り組まれました。

具体的には、同国のブランタス川流域のピリピリダムやジェネベラン川流域の取水口の閉塞や気候変動が原因と疑われる洪水被害への対応策の検討を進め、日本でも取組が進むダム再生事業をその解決策として提案するに至りました。その過程においては、公共事業・国



インドネシアでの現地調査

2018年の海外インフラ展開法施行とともに、統合的水資源管理の知見と、当時の日本企業の進出の伸張を踏まえ、これらの課題解決に向けて、同法に基づく現地調査を実施することになりました。

同国において、現地調査や政府関係機関との協議等を重ね、調査結果については日本国内の関係省や関係団体を委員とする「水資源分野における我が国事業者の海外展開活性化に向けた協議会(活性化協議会)」において報告・助言をうけながら検討を進めた結果、同国政府から「バゴー・シットタン川流域統合水資源管理マスタープラン策定」に関する要請



ミャンマーでの現地調査

民住宅省の大臣に、対策の必要性と緊急性に係る課題認識や解決方針等を説明し、同省から事業実施に向けた期待が示されることとなりました。

現地調査は2019年度までは、現地へ赴き現場の確認や同国の政府機関と対面で協議を行う事ができましたが、2020年以降は、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により海外渡航ができなくなりました。しかしながら、WEB会議を積極的に活用し、同国との協議を継続することができました。

その結果、同国政府において課題への理解と案件化への機運が高まり、これら案件について、2020年10月に同国政府が作成する「中期計画対外借款リスト2020-2024」に掲載され、日本が支援する円借款事業への具体化の一步を踏み出すことになりました。



WEB会議の様子

フィリピンでの取組

フィリピンにおいても、堆砂の進行が著しいことから、発電及び利水補給へ甚大な影響が懸念されているダムがあり、ダム再生が必要とされています。

このような課題への対応のため、現地調査のほか、案件の実施に向けて相書が日本国政府に提出され、同法施行後初の正式要請書が提出されたケースとなりました。

本案件の具体化により、日本の治水・利水に関する計画・技術の知見・ノウハウを活かした計画が策定され、日本の企業の展開が期待されましたが、残念ながら、その後2021年2月のミャンマーでのクーデターにより本案件の具体化は停止される事になりました。

今後の水資源機構の国際業務

海外インフラ展開法の施行を契機に我が国事業者の海外展開に資する案件形成を始めとする海外調査等業務について紹介しましたが、これらの調査は、国内の業務で培われたノウハウをベースに、それぞれの国や地域の制度、考え方など現地での調査や協議など、海外の事情を一つ一つ学びながら対応しています。

これらの活動は、水資源機構単独でできるものではなく、活性化協議会の委員や調査対象国の大使館、JICA事務所や専門家の多大な力添えがなければ成り立たないものです。

これからも、水資源機構の有する専門的な技術・ノウハウやNARBO活動をを通じて培った関係を活かし、水資源分野における海外インフラ事業への我が国事業者の参入促進に向け、案件の発掘・形成に寄与してまいります。

淀川水系 川上ダム

地域を守り、川を潤し、水を届ける



4月から
管理開始

川上ダム建設事業完了式

3月26日に川上ダム(三重県伊賀市)において「川上ダム建設事業完了式」を行いました。当日はあいにくの雨でしたが、関係者を含め約200名に参列いただきました。

主催者挨拶として金尾理事長より、事業に協力をいただいた皆様、とりわけ移転者の皆様へ感謝の意を示し、川上ダム本来の目的を達成するべく、また、地域の方々に愛される観光資源として地域振興・活性化に寄与するために取り組んでいくことを述べました。

式典の最後に、伊賀市長を始め地域の代表の方々により川上ダム湖名碑の除幕を行いました。ダム湖名は625件の応募をいただいた中から川上ダム水源地域ビジョン策定委員会により「あおやま川上湖」に決定されたもので、岡本伊賀市長に揮毫いただきました。

令和5年4月からは管理を開始し、ダムの目的を発揮させることとはもとより、地域の皆様にも親しんでいただけるようにダムを管理していきたいと思っております。今後、水源地域ビジョンを通じてダムを活かした地域活性化にも力を注ぎ、関係自治体や地域の皆様と協働していきたいと思っております。



金尾理事長による主催者挨拶



「あおやま川上湖」名碑除幕式

置しました。河川及び貯水池水質について調査・把握し、水質保全設備を適切に操作・運用します。

川上ダムの概要

川上ダムは、淀川の支川である木津川の上流部、三重県北西部に位置する伊賀市を流れる前深瀬川に建設された多目的ダムです。淀川本川及び木津川の洪水被害を軽減するなど、大阪府、京都府、三重県にまたがる淀川流域全域の治水安全度の向上に寄与し、上野遊水地や河川改修と相まって、伊賀市上野地区等の浸水被害の解消、前深瀬川及び木津川の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図ります。また、既設ダム(高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム及び比奈知ダム)が堆砂除去する際の代替補給や伊賀市の安定した水道水源として、最大毎秒0・358m³の水を供給します。



現在の取組内容

- 試験湛水**
試験湛水とは、水を貯められる最高水位まで貯水位を上昇させ、その後確認が必要な貯水位まで降下させることにより、ダム堤体や貯水池周辺地帯等の安全性を確認するもので、10月16日以降の非洪水期には、水を貯めることができる最高水位に向けて再び貯水位を上昇させます。また、初めて貯水による水圧を受けることから、安全管理のため「ダム堤体観測・巡視」「貯水池斜面観測・巡視」「ダム堤体及びダム右岸鞍部の地下水位等観測・巡視」を行っています。
- 水道用水の供給**
木津川の河川流量が減少した際は、伊賀市からの要請に基づき、ダム貯留水を木津川に供給し、水道用水として取水できるようにします。
- ダム防災操作**
洪水期(6月16日～10月15日)は大きな洪水が想定されることから、ダム下流の浸水被害軽減を目的とするダム防災操作のため、常時は洪水貯留準備水位で貯水位を維持し、洪水を一時貯留できるように備えます。洪水時には、この容量に洪水量(70m³/s)以上の流入水を貯留することにより、洪水調節を行います。
- ダム貯水池水質の保全**
安全で良質な水の提供を行うために、川上ダムでは貯水池水質の保全、下流河川への影響低減を目的として、選択取水設備、曝気設備、流入水バイパス設備などの水質保全設備を設置
- モニタリング調査**
「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」に基づき、ダムによる環境影響などの変化を分析・評価するため、試験湛水開始前の令和2年度からモニタリング調査を実施しています。調査結果については有識者委員による川上ダムモニタリング部会において分析・評価を行い、川上ダムの適切な管理に資することとしています。モニタリング調査は令和6年度まで実施する予定です。
- 水源地域ビジョン**
水源地域活性化の行動計画として「川上ダム水源地域ビジョン」を策定しています。具体的には「木津川源流体験」「地域の観光交流イベント」「水源地域散策会」など26項目の具体的取組が策定されています。関係機関と連携してこれらの取組を推進していくとともに、地元住民やNPO、関係機関が行う水源地域の活性化に関わる活動に対して、活動の継続や拡大のための支援や協力を行っていきます。
- 湖面利用**
ダム湖は誰もが利用できる公共の空間であり自由利用が原則で、全ての人が公平で安全に利用できる必要があります。また、貯水池は重要な水源であるため利用においては水質保全を遵守する必要があります。このため、水質保全及び安全面を考慮し、エンジンなどによる動力船の利用制限、外来魚の放流禁止、「ゴミの持ち帰り」に努める、「他の利用者の迷惑になる行為」の禁止など、関係機関と協議して定めた湖面の適正な利用のためのルールを守りながら、湖面を活用していきます。



流入水バイパス設備

愛知用水三好支線水路緊急対策事業完了報告会

3月16日に中部支社主催による「愛知用水三好支線水路緊急対策事業完了報告会」が愛知県みよし市にあるカネヨシプレイスにて、多くの来賓及び関係者に出席いただき盛大に開催されました。

本事業は、南海トラフ地震防災対策推進地域内にあつて堤体下流に大型商業施設や防災活動拠点を抱える三好池の耐震補強と、たわみが顕著な強化プラスチック複合管（FRPM管）約1km区間の布設替え等を行う事業として、平成30年度～令和4年度の工期で実施したものです。



日置副理事長式辞

日置副理事長より関係者へ事業完了の感謝を伝える式辞のあと、愛知県大村知事より本事業の実施による農業振興と地域の安全・安心が増したことへの感謝の言葉に加え、今回事業実施

のため三好池の水位を低下させたことに際し、自身が「池の水全部抜く」でテレビ出演した際のエピソードを交えた祝辞があり、会場内を和ませました。

その後、林愛知県議会議員、みよし市小山市長、東海農政局小林局長の祝辞のあと、愛知用水土地改良区久野理事長より、緊急性の高い事業が短期間で事業着手に至ったことに対し関係者の協力への感謝の言葉が述べられました。

本事業の実施によって三好池の耐震性が高まり、地域の安全・安心が確保されるとともに、支線水路の老朽化対策とあいまって農業用水の安定供給と維持管理費用・労力の負担軽減が行われ、都市近郊の立地を活用した高収益作物の生産の拡大が期待されるところでです。



久野理事長祝辞

愛知用水三好支線水路緊急対策事業の概要

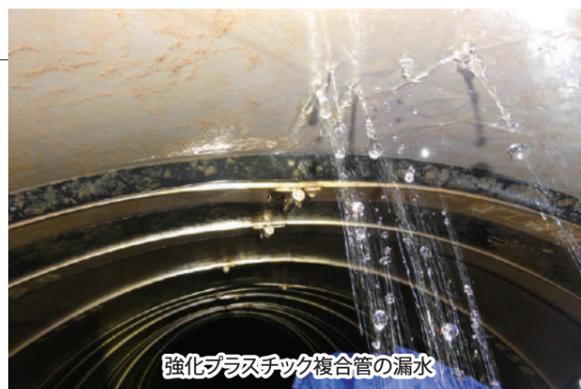
愛知県刈谷市、豊田市、みよし市及び愛知郡東郷町にまたがる農地に用水を供給している愛知用水・三好支線水路において、老朽化した一部の施設の整備と耐震化を行うことで、大規模地震に伴う被害の防止又は軽減を図り、農業生産性の維持、農業経営の安定に資するものです。



- ② 三好池
堤体補強工……1式
取水施設補強工……1式
緊急放流施設工……1式

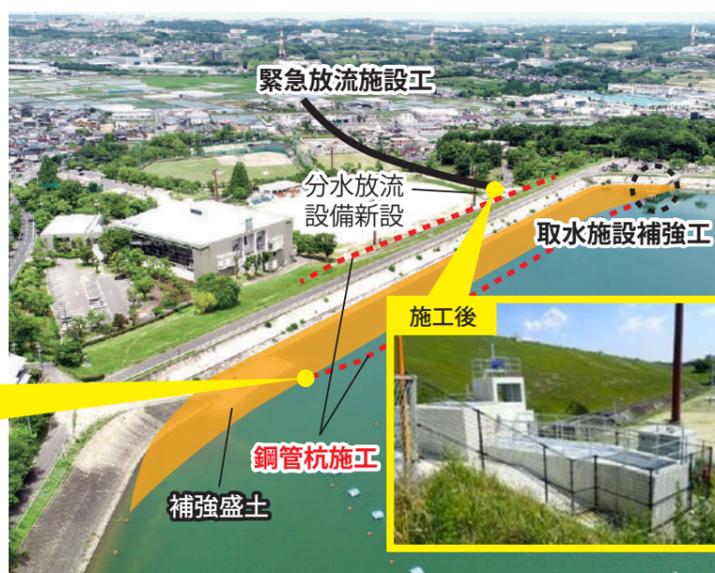
① 三好支線水路改修

三好支線水路の口径1650mmの老朽化した強化プラスチック複合管（FRPM管）を、強度の高い1700mmの鋼管に更新しました。工事は農業用水供給への影響が少ない10月から3月に実施し、都市化した区間については仮設鋼矢板による土留め工法により、周辺地盤への影響を考慮した形で工事を行いました。



② 三好池耐震対策

南海トラフのような大規模地震が発生した場合、基礎地盤の液化化により堤体が沈下するおそれがあるため、堤体の流動化による沈下を防ぐことを目的に、上下流に鋼管杭を埋設しました。さらに、堤体上流側に補強盛土、取水塔の耐震補強対策も実施し、緊急時に池の水位を安全かつ速やかに低下させるための緊急放流設備を整備しました。



令和5年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞

愛知用水土地改良区

愛知用水の水源地である牧尾ダム建設時の土取場等の跡地に、カラマツ等を植栽して以降、森林整備活動を毎年行っているほか、受益地域の団体が実施する水源かん養林育成のための植樹祭・育樹祭を運営、出前授業や用水施設の見学会を開催していただきます。こうした水の大切さや森林の持つ水源かん養機能の重要性を啓発する行いが広く認められ受賞されました。



※愛知用水土地改良区久野理事長は2列目の左から5番目

**木曾川用水総合管理所
柿崎 達也氏**

〔現在の担当業務〕弥富揚水機場の機械・電気通信設備に関わる障害対応等の保守管理、特別高圧受電設備の切り替え操作や分水口の配水操作、関連施設の巡視点検など。

〔技術の継承〕機構内で共有している設備経験で得た有用なノウハウや過去の障害事例等を蓄積活用していくことが大切で、各種検討会や訓練等で技術継承が行える仕組みは整備されていると思います。加えて、資格取得等の個々のスキルアップで組織全体の技術レベルを高めていくことも大切です。

〔忘れられない業務経験〕平成28年利根川夏洪水のころ矢木沢ダム管理所長で、5月下旬に国土交通省利根川ダム統管が、利根川上流ダム群の貯水量が平年を上回る速さで低下の記者発表がされたあと突如、静かなダムに報道ヘリが来集し、湯水対策本部の設置と同時にマスクミ取材が殺到する大変な状況が続き、首都圏最大の水瓶



迅速かつ的確な判断能力

として常に注目されるダムで予想もなかった貴重な業務経験をさせてもらいました。余談ですが、全国ネットのTVニュースで私のインタビューが放送された際、四国勤務当時よく通っていた飲食店のママさんから突然「テレビ見たよ」と電話をいただいたりしました(笑)。

〔水機構の強み〕いろいろな専門分野に対応可能な人材が豊富なことが強みといえるのではないのでしょうか。また、巨大で重要なインフラ施設を造り管理する仕事に携われることも機構の魅力であり仕事へのやりがいを感じます。

〔後輩に向けて〕私は現役中いくつかの事故や災害を間近で感じ、国土交通省四国吉野川ダム統管出向中に防災情報課長として行政機関の防災体制を経験し、日頃の訓練や事故災害時における迅速かつ的確な判断能力がいかに大事かを学びました。私たちの仕事は水の安定供給はもとより、防災機関として近年の異常洪水等の災害リスクから当機構への期待が高まっていることは間違いありません。後輩職員の皆さんの益々の活躍に期待しています。

**筑後川上流総合管理所
福島 政則氏**

〔現在の担当業務〕朝倉三ダム(江川、寺内、小石原)の効率的な水運用管理、各種訓練、工事検査や安全管理に関する工務事務など。

〔技術の継承〕朝倉三ダムの総合運用は、先に運用する江川、寺内二ダムに小石原川ダムを加えた三つのダムを一つの貯水池として効率的な水運用を行うもので常にきめ細やかな運用操作が求められます。こういった運用ルールに至った筑後川の歴史的背景や経緯を踏まえ、利水者それぞれの立場を理解し、これをしっかりと継承して施設管理に当たっていくことが大切だと考えています。



施設管理の大切さ

月の福岡導水の漏水事故対応です。福岡都市圏の水道用水の約三分の一は流域外の筑後川によるもので、事故発生で速やかに対策本部を設置し、24時間体制で山口調整池からの代替補給や復旧対策を急ぎ、結果的に一週間程度で通水回復できました。しかし、当時は現地でテレビ中継がされるなど、重要施設だからこそトラブル発生で一気に注目が集まる怖さや責任感とともに、必死の復旧対策後に現地でも味わった達成感は今でも忘れられない業務の一つです。他にも、平成29年の九州北部豪雨での江川ダム、平成30年台風24号での宇連ダムでそれぞれ記録に残る洪水量での緊迫した防災操作も強く記憶に残っています。

〔水機構の強み〕現場事務所が業務多忙時に、筑後川局から機動的に職員を派遣し効率的に業務を遂行する騎馬民族型や流域スペシャリストなど、水のプロ集団として時代変化に的確に対応してきた組織であることが水機構の強みではないでしょうか。

〔後輩に向けて〕水問題はSDGsに掲げる世界的テーマです。サッカークラブではありませんが、若手職員の自己研鑽による個の力と関係者とのチームワークをそれぞれ高め、さらにグローバルな組織としての活躍に期待しています。

定年退職後に機構業務をサポートいただいているシニアスタッフの皆さんに、水のプロ集団を次世代につなぐ技術の継承、将来に向けた思いなどを語っていただきました。

**琵琶湖開発総合管理所
門田 光司氏**

〔現在の担当業務〕琵琶湖開発に関わる環境保全対策全般の業務補助。施設管理の充実のための維持管理データベースの整理と活用促進など。

〔技術の継承〕琵琶湖の技術継承で難しいところを一つ上げると洪水時の内水排除操作があります。巨大な琵琶湖周辺の内水排除は他にない特別なノウハウがあり、琵琶湖水位を見ながら周辺河川から琵琶湖に洪水を取り入れる段階、樋門を締めて排水ポンプによる内水排除に切り替えるタイミング、周辺状況の把握に努めつつ内水氾濫被害を最小限にするための運転操作が常に求められます。琵琶湖の特性を踏まえた操作訓練を重視して操作技術と判断力を養い、いつ起こるかもしれない異常洪水にしっかりと備えていくことが



使命感をやりがいに

大切だと思っています。

〔忘れられない業務経験〕入社2か所の池田総合管理所で水運用の基本的なところを先輩方に教え込まれたことが、その後の水運用計画に関わる仕事に多く関わるようになったきっかけになったと思っています。その延長で川上ダムでの淀川流域委員会対応の経験は忘れられませんし、大変でもやりがいを感じながら当時はやっていた。人とのつながり、大変なときこそ周りを頼りにしたほうがいいことを学んだように思います。

〔水機構の強み〕大水系で多くの施設を管理していること、流域全体で水運用を行う横のつながりも見ることができるとは機構の強みだと思います。国内総人口の半分以上が住む地域で開発水量の8割以上のシェアを持っていること、これはすごいことです。

〔後輩に向けて〕こういった影響力の大きい仕事をしている使命感をやりがいとして頑張ってもらいたい。昔は変わらぬ日常を過ごしてもらおう縁の下力持ちとして世間の話題にならないことこそが我々がしっかり仕事ができていることだと思っています。公団から機構組織に移行して20年、今はしっかり組織の存在意義を伝え、水資源の重要性と防災意識を高めてもらう広報への意識も大切なのではないのでしょうか。

**荒川ダム総合管理所
杉田 康司氏**

〔現在の担当業務〕用地関係を中心に、地域や関係する時事情報の収集整理、施設巡視、イベント・視察対応、安全協議会、防災業務など。

〔技術の継承〕若手職員の皆さんが、業務遂行の根拠を確認したうえで、工夫したり改善したりするスタンスにつなげられるように心がけています。ただ、建設現場が減って用地や補償業務に馴染みのない中で技術の継承としては、座学的な伝達となる傾向は否めませんが、なるべく一緒に現地の境界杭を確認したりするなど、用地業務に触れられるきっかけを作るようにしています。



現場感覚

〔忘れられない業務経験〕各事務所様々な思い出がありますが、関係者との補償協議の結果、「私がこの事業に協力することにしたのは、決してあなた方が示した補償内容に納得したからでは無い。あなた達が私達の気持ちを解ろうとしてくれたこと、誰に対しても平等に対応していることが理解できたからである。」とコメントももらったことが補償の業務を経験してきて一番忘れられない出来事です。

〔水機構の強み〕多くの方々の生活に深く関係する業務を行っており、その分期待されています。それら関係者の方々の声や感覚を敏感に感じ取り、業務に反映させていくことができることが機構の強みだと思います。また、全国から職員が集まっており、現場も各地に存在することで、様々な地域情報や歴史に触れられることも魅力だと思います。

〔後輩に向けて〕業務を行っていく上で、「現場」を大切にしたいと思っています。実体験による感覚や記憶は、統計的な数値や文面のみからでは蓄積できないですし、現場確認や各種協議も、その場所や実際に対面することで見えてこないものもあります。是非、機械的な分析と、自らの五感で感じ取った「現場感覚」を上手く融合し、経験を培って貰いたいと思います。

連載企画
第2回

シニア力

天気のみカタ

近年の豪雨と

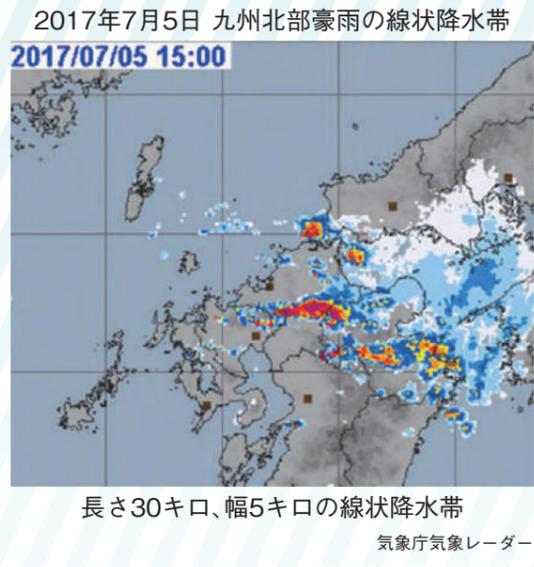
線状降水帯



よしたけ あきら
吉竹 顕彰

佐賀県武雄市生まれ。平成2年よりNHK福岡放送局で気象キャスターとして出演開始。現在、NHK福岡夕方ニュース番組「ロクいち!福岡」の気象キャスターとして気象情報を担当。趣味は本を読む、植物を観察する、ジャズを聴く、自転車をこぐ。

2017年7月5日に「九州北部豪雨」が起きました。福岡県の朝倉市から大分県の日田市にかけて長時間に渡り線状降水帯が停滞、甚大な被害が発生しました。当日、気象レーダーを視ていると、昼頃から福岡県と佐賀県の県境にある脊振山系の東端を起点にして、みるみるうちに積乱雲が発達し東西に連なりました。NHK福岡放送局で気象キャスター



2017年7月九州北部豪雨線状降水帯発生メカニズム

なせ長時間大雨が継続?
積乱雲が同じ場所を次々に発生移動

北西風
脊振山
九千部山
線状降水帯
南西風

国土地理院撮影の空中写真を使い吉竹作成

地方でこれまで経験のない記録的豪雨になっています。命を大切にしてください。非常に危険な状況です。すぐ避難してください。逃げてください!」が第一声でした。

午後5時51分、福岡県に大雨特別警報が発表されました。線状降水帯は午後9時までのおよそ9時間にも渡り同じ場所に停滞、その間に発表された記録的短時間大雨情報は15回

をしている私は、「線状降水帯だ、それもまたたく動かない、危険だ!」と判断、局に駆け付け、午後3時から緊急臨時ニュースに対応。「朝倉市など筑後



ものぼりました。私自身、これほど狭いエリア(長さ30キロ、幅5キロ)に長時間停滞する線状降水帯は初めての経験でした。早く線状降水帯が動いてくれ、弱まってくれ、みなさん逃げてくださ

と願いながら、私は翌朝まで情報の発信を続けました。翌日、朝倉市にある北小路公民館で観測された雨量は803.0mmと知りました。実質わずか9時間の間に年間降水量の半分近くの豪雨が一気に降ったこととなります。1時間に90mm前後の猛烈な雨が9時間降り続いたこととなります。愕然としました。

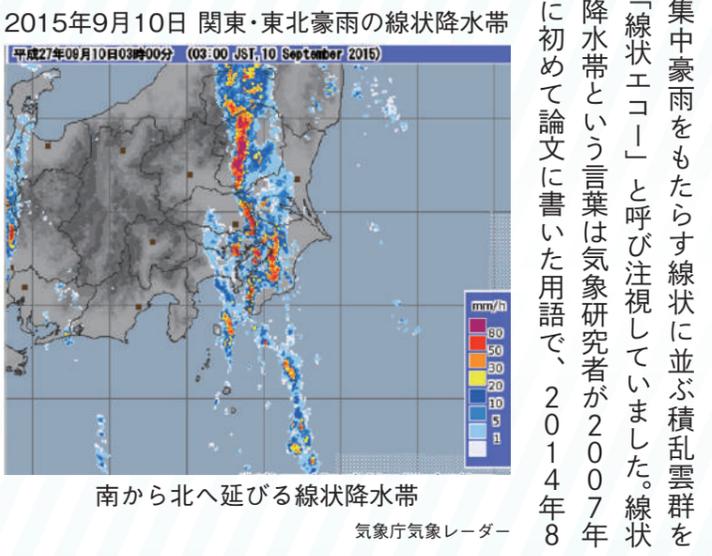
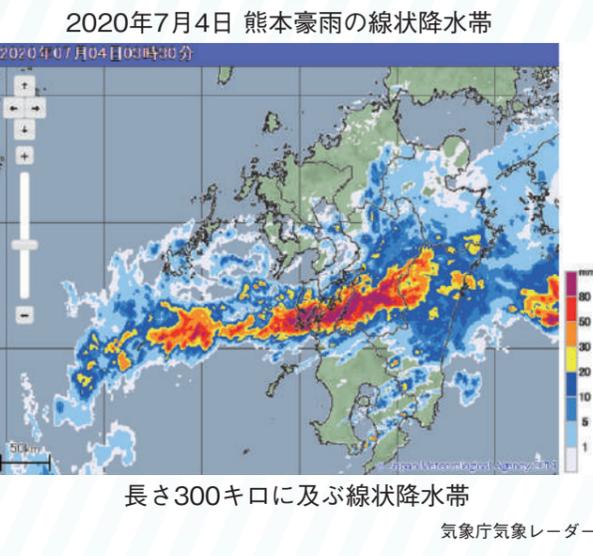
「1時間100mm以上の猛烈な雨が同じ場所です。2時間以上続くと大きな災害が必ず発生する。3時間以上続くと未曾有の甚大な災害が確実に発生する」という私の経験則をはるかに超えていました。私は1980年から気象の仕事に従事していますが、最初の豪雨の経験は1982年7月の長崎豪雨。

この時は長崎県長与町で1時間に187mm(日本の1時間雨量の記録)、当時の長崎海洋気象台で3時間に300mmを超す豪雨が観測され、長崎市を中心に未曾有の災害が発生しました。

朝倉市を中心にした九州北部豪雨の被害の全貌が明らかになるには一週間以上かかりました。

あまりの被害の甚大さに、私は大変申し訳ない気持ちと無力感に苛まれるとともに、線状降水帯の恐ろしさと予測の難しさを痛感しました。前日の段階ではもちろん当日午前まで、数値予報資料などで九州北部の狭いエリアに線状降水帯が発生するとの予測が出来なかつたのです。

気象レーダーがデジタル化された1980年代後半から、私たち気象関係者の現場では、



集中豪雨をもたらす線状に並ぶ積乱雲群を「線状エコー」と呼び注視していました。線状降水帯という言葉は気象研究者が2007年に初めて論文に書いた用語で、2014年8月の広島豪雨の際に、初めて「線状降水帯」という呼び方がマスコミを通じて使われ始めたといわれています。2015年9月、2つの台風により関東・東北豪雨が起り鬼怒川が氾濫、このときは南から北に延びる線状降水帯が発生しました。2018年7月の西日本豪雨の際は、西日本で多数の線状降水帯が同時多発的に発生、広範囲に大きな被害が出ました。2020年7月の熊本豪雨では、長さ300キロ近くに及ぶ長大な線状降水帯により、人吉市などで甚大な被害が発生。

このように線状降水帯は、その長さ、幅、走向(傾き)、停滞する時間、発生から消滅までの時間など様々です。一般に線状降水帯は、発達した積乱雲が帯状に連なり、その長さが50キロから300キロ、幅が20キロから50キロで停滞性のあるものを指します。地上から上空1000m以下の下層で大量の高温多湿な水蒸気が流入し、風の収束が起こった場所の上昇気流が起り次々に積乱雲が発達、列をなす線状降水帯が形成されるメカニズムが徐々に明らかになってきました。山などの地形の影響がトリガーとなり発生するケースもあります。現在、気象庁や大学など関係機関が協力し、観測を強化、研究を行い、線状降水帯の予測手法を確立する努力が続けられています。気象の最前線にいる私たち気象キャスターは、これからも自然の振る舞いに謙虚に向き合い、気象現象を的確に判断し、メディアを通じて最新の情報を皆さまにお伝えしていきたいと思

気象キャスターの方々と交流

水資源機構が管理する施設は、降雨などの気象情報をタイムリーに把握し、必要な用水補給のための施設操作や洪水時の防災操作を行っています。

一方、テレビで日々報道される天気予報に出演される気象キャスターの方々は、予想される各地の気象情報をタイムリーに分かりやすく報道されています。

いずれも住民生活や社会経済活動を毎日支える大切な役割を担っており、水資源機構では、相互に担う役割や知見を高め理解を深めるべく、各地で気象キャスターの方々との交流を重ねています。

吉野川本部では、4月23日に香川県で活躍される気象キャスターの方々と早明浦ダムと池田ダムにお招きし、施設が担う役割やその大切さを紹介しながら、相互に意見交換する交流会を開催しました。

今回は、夕方のニュース番組でキャスターとして活躍されていますNHK高松放送局の田井杏佳気象予報士とKSB瀬戸内海放送の斎藤康之アナウンサーに参加いただきました。

は、4月26日の夕方のニュース番組内で交流会に参加されたことや視聴者に感心を寄せていただけよう、早明浦ダムの現在の貯水率と1年前の貯水率について選択クイズを出され、視聴者からの投票が1566件もありました。

水資源機構では、これからも気象キャスターの皆様方と連携し、交流を各地で重ねることにより、多くの方々に機構が担う役割や施設の大切さを分かりやすく伝えることができるよう努めてまいります。



見学の様子(早明浦ダム)

最初は、高知県にある四国最大の水瓶「早明浦ダム」を見学していただきました。

まず、管理所に勤務する職員から早明浦ダムが担う役割や施設の操作、治水機能を向上させるため放流設備の増設などを行う「早明浦ダム再生事業」の説明をした後、ダム内部の点検通路をたどりながら、様々な観測や点検などを行っていることを紹介し、実際のダム管理を体感いただきました。

次に、吉野川の水を必要とする地域に安定的に届けるため四国の要の役割を担う「池田ダム」を見学していただきました。

池田ダムでは、徳島県、香川県に届ける必要水量をもとに池田ダムでゲート操作を行い、一定の水位になるように調整することや早明浦ダムからの補給指示など、年間を通じて24時間体制できめ細かい管理を行っ



見学の様子(池田ダム)

ていることを紹介しました。

さらに、吉野川から香川県に水を届けるための香川用水を取水口から香川県側の香川用水記念公園内にある東西分水工、湯水時に備え水道用水を確保する調整池「宝山湖」まで訪ねていただき、お二人が活躍される香川県に水が届けられる仕組みを紹介しました。

参加いただいたお二人とも終始熱心に説明を聞かれ、地域の住民生活や社会経済活動を支えるため、機構が担う役割や施設の大切さを深く認識いただきました。

KSB瀬戸内海放送の斎藤アナウンサーは、早速、放送局のホームページにて、交流会に参加されたご感想と視聴者に伝えるニュースに活かしたいとのご感想を述べていただきました。

また、NHK高松放送局の田井気象予報士

オンライン交流会

NPO法人気象キャスターネットワーク(以下WCN)の方々と機構職員と双方で知見を高め、意見交換するため、今年も6月17日に本社主催による「オンライン交流会」を開催しました。

交流会では、洪水時におけるダム・水路などの機構施設による防災機能の紹介や利根導水の利水操作を紹介しつつ、最近よく聞く「線状降水帯」「ゲリラ豪雨」など気象現象も話題にし、双方の知見やより伝わりやすい情報提供について意見交換させていただきました。今後、WCNの皆様にも機構業務に触れていただく機会として、所管水系毎の施設見学会&意見交換会などを行う予定です。



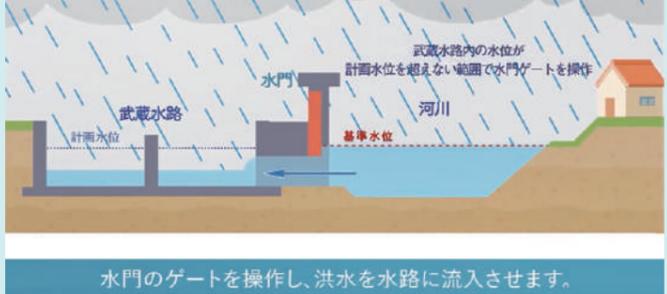
水資源機構の職員



気象キャスターネットワーク

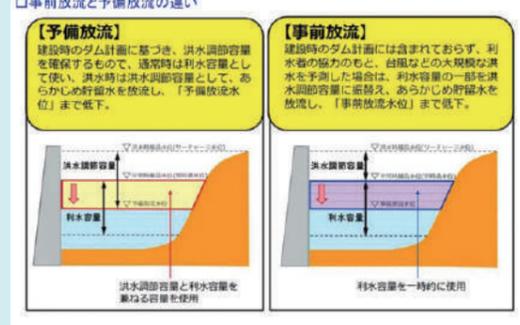


水門からの洪水の取り込み



水門のゲートを操作し、洪水を水路に流入させます。

近年の異常洪水に対する対応 事前放流



東海農政局から感謝状授与



令和4年5月17日に愛知県豊田市の明治用水頭首工で発生した大規模な漏水事故に対して、東海農政局から排水ポンプ車の派遣要請を受け、水資源機構は排水ポンプ車及び緊急災害支援隊としての職員を現地に派遣し、緊急取水のための物的・人的支援を行いました。支援隊は、仮設ポンプの撤去・再設置、破損したポンプ・ホースの交換等の維持管理を、農業用水の受益地域において巡回点検、空気弁の漏水対応等を行いました。

このような支援活動について、5月18日に農林水産省東海農政局から水資源機構へ感謝状が贈られました。水資源機構として今後とも災害や事故など不測の事態に備えた体制整備を強化するほか迅速な支援体制の構築に努めてまいります。



創立記念日5月1日にライトアップ

前身の水資源開発公団の創立記念日である5月1日に、ダムが所在する水源地域の方々への感謝とともに、ダムが担う役割の大切さに広く関心をいただくため、水資源機構が管理する5つのダム(草木ダム、比奈知ダム、一庫ダム、早明浦ダム、大山ダム)でライトアップを行いました。当日は時間限定でしたが、夜空に浮かぶ幻想的なダムの姿を皆様にお楽しみいただけたかと思えます。興味がありましたら、この機会にダムに足を運んでみてはいかがでしょうか。



総合水防演習に排水ポンプ車と職員23名が参加



水資源機構では、洪水、渇水や地震などの自然災害等による被災に備え、排水ポンプ車、可搬式浄水装置を配備し、機構が管理する施設が被災した場合はもとより、災害対策基本法に基づく指定公共機関として、被災地への支援活動を行っています。

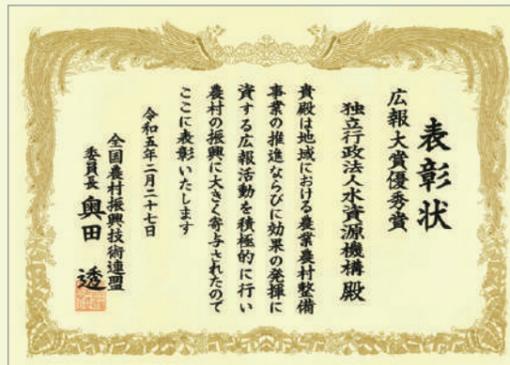
毎年、都府県をまたがる大規模な河川流域で開催される水防演習に参加しており、5月27日に埼玉県深谷市内の利根川河川敷で開催された利根川水系連合・総合水防演習では、排水ポンプ車による排水訓練を国土交通省と連携して実演するとともに、機構が行う災害支援活動について日頃の訓練の成果を紹介しました。



「水機構ニュース」では、水資源機構からの最新ニュースを中心に、水にまつわるさまざまな情報をお届けします。

農業農村整備事業広報大賞 優秀賞を受賞

「水資源機構設立60周年関連広報活動」について、「独自の課題とユニークな活動を実施した」として、PR動画の放映、各事務所での多様な活動など一連の広報活動が水の安定供給に寄与したことが評価され、令和4年度農業農村整備事業広報大賞優秀賞を受賞しました。





読者の声

読者の皆様から寄せられた
「水とともに 2023・春号」へのご意見・ご感想を紹介します

「関東塾」、「インターンシップ」、「シニア力」など、陰で支える人を特集してくれたことで、若く未来を背負う人々から、今まで支えてくれたシニア世代まで活躍されていることが伝わる記事でした。(40代・女性)

木曾川河口付近は、地図で見ると複雑な経路ですが、見やすい図にまとめてあると感じました。「暮らしと産業」で付近の特産物などにも触れられているのも興味深かったです。(水の郷めぐり) (50代・男性)

近畿圏の淀川上下流を結ぶ念願の一大プロジェクトであった「琵琶湖総合開発計画」の調整において度重なる困難と障壁で関係機関の先人たちの苦勞と奮闘があった。これら先人たちの意思を未来にどう引き継いでいくかを考えることの重要性和メッセージ発表イベントは非常に意義ある機会であると感じた。

「2100年の桜予想開花日」の九州～東北の地図を見て、九州の方が桜の開花日が遅くなるという理由に、地球温暖化や台風の影響があるというのを読み、驚きました。2100年には、自分はもう土に返っていると思いますが、未来の地球の姿がどのようになっているのか、心配させられました。(連載 天気のみかた) (50代・男性)

(特集 琵琶湖開発施設30周年)

(60代・男性)

主な 本号の ご紹介施設

P2

福岡県・佐賀県:

小石原川ダム
江川ダム
寺内ダム
筑後川下流用水

特集 九州が熱か!!

P6

群馬県: 矢木沢ダム・奈良俣ダム

トピックス 「首都圏の水がめ」みなかみ3ダム・春の点検大放流

P14

愛知県: 三好支線・三好池

トピックス 愛知用水三好支線水路緊急対策事業

P12

三重県: 川上ダム

トピックス 淀川水系 川上ダム

P20

高知県: 早明浦ダム

徳島県: 池田ダム

香川県: 香川用水

トピックス 気象キャスターの方々との交流

編集 後記

厳しい暑さが続いておりますが、体調いかがでしょうか。

今年度、九州の筑後川局管内で3つも新たな事業がスタートし、皆様への事業の紹介も兼ねて特集記事にさせていただきました。他にも「首都圏の水がめ」みなかみ3ダムの点検放流や昨年度末に事業完了した川上ダム、愛知用水三好支線水路に関する記事と盛り沢山です。ぜひ、ご覧ください。

編集・発行 独立行政法人 水資源機構

〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2
総務部広報課 TEL.048-600-6513 (直通) FAX.048-600-6510



ホームページ
<https://www.water.go.jp>



Twitter
https://twitter.com/jwa_pr



Facebook
<https://www.facebook.com/jwaPR>



Instagram
https://www.instagram.com/jwa_pr

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

ISSN 2187-8048